

令和7年度(2025年度)第4四半期 事業経過報告 「ともに支えあい みんなの笑顔が見えるまちづくり」 苫小牧市社会福祉協議会

拠点区分	事業名 (担当課名)	地域福祉実践 計画体系	具体的な実施事項	令和7年度の事業実績内容	令和7年度 第4四半期実績	令和6年度 第4四半期実績
サービス区分 事業企画 広報	1 社協だより発行業務 (総務課)	基本目標3 地域から信頼される社協づくり 「まち」	社協各事業の広報 4. 7. 10. 1月 年4回発行 発行部数86,800部×4回 ※全戸配布、社協2号会員関係機関へ配布	・苫小牧市社協の活動を発信し知らせることから始まり、地域の課題や現状を共有し、幅広い年代と一緒にアクションを起こしてもらうことを目標に、情報発信を行った。また、ユニバーサルデザインを検討し、より多くの方に情報を伝えられるよう点字・音声データでの発信も継続して行った。 ・1月発行で200号(昭和47年3月創刊)となり、増刊号を発行した。	年4回発行 197号～200号発行 347,400部	193号～196号発行 347,200部
社会福祉事業拠点 地域福祉推進事業	1 重層的支援体制整備事業 (地域福祉課)	基本目標2 笑顔あふれる地域づくり「ちいき」	① 重層的支援体制整備事業 社協における既存の相談窓口や地域活動から把握した住民ニーズについて、関係機関との連携やアウトリーチを行いながら、「参加支援」や「地域づくりに向けた支援」を進める。また、地域における「場づくり」として、世代や属性を超えて交流でき、かつ気軽に相談できる場を整備する。 生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカーでの活動がそのまま重層的支援体制整備事業となることから各事業を継続的に進め、制度では解決できない部分について検討し取り組んでいく。	・狭間ニーズへの対応を行った ※既存の取り組みでは対応できないニーズにも対応した。 ・新たな社会資源の開発。 ・住民同士の顔の見える関係性の育成を行った。 ※世代や属性を超えて交流できる場や居場所を確保した。 ※多文化における交流・参加・学びの機会のコーディネートを行った。 ・相談支援から関係機関と協働で継続的な伴走支援を行った。 ※参加支援としてその人に応じた社会参加支援を行った。 ※誰もが参加することができる地域づくりに向けた支援を進めた。	(1) アウトリーチ・参加支援 ① 重層的支援対応ケース アウトリーチ 102件 参加支援 10件 ② 多機関協働による支援会議 10件	
			② 生活支援コーディネーター (1) 生活支援・介護予防サービスのコーディネート ① 地域の高齢者支援ニーズ及び地域資源の把握、問題提起 ② 資源開発 ③ 担い手養成・意識醸成 ④ 個別支援 ⑤ 関係者との協議 (2) 多様な関係機関との定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること ① 犬・猫一時預かり事業 ② 地域包括ケア会議参加による地域ニーズの情報共有や把握、社会資源の構築 (3) 地縁団体や地域包括支援センター、民間企業等と連携し地域支援を行う ① 担い手活動支援(だけボラ)事業 ② ハートマSTS事業(移送サービス) ③ 民間企業等との連携 (4) 平時・有事における見守り活動の推進と身寄りのない方への支援体制づくり ① 避難行動要支援者支援制度等の活用による見守り活動推進 ② 市役所等の関係機関と連携しながら、身寄りのない方への支援体制づくり	(1) 生活支援・介護予防サービスのコーディネート ① 第2層SC圏域の協議体(圏域会議含む)、座談会等を通じて地域ニーズを把握した。 ②、③ 地縁団体や民間企業、学校等との既存事業の他、ふれあいサロンや社協BASEを軸としたコミュニティによる繋がりを活かしながら資源開発とともに担い手養成を図った。 ④ 地域包括支援センター等、各関係機関との情報共有と連携。また上記コミュニティへの参加支援を行い、多職種連携しながら重層的支援への介入をした。 ⑤ 協議体や関係機関他、SC研修等を通じて他の地域のSCとの交流、情報交換を図った。 (2) 多様な関係機関との定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること ① 保護団体や動物病院等との連携推進。また地域の行事等を通じて、本事業の周知・啓発を図っていく中で、ボランティアの確保へつなげた。 ② ケア会議: 制度上では対処しきれないニーズに対しCSWと共同でアウトリーチを行う。圏域会議: 地域ニーズを把握し、社会資源構築のため協議体、座談会を検討した。 (3) 地縁団体や地域包括支援センター、民間企業等と連携し地域支援を行う ① だけボラ間のつながりを築いていくとともに地域完結型に向けて、自助・共助への意識醸成として町内会の役員会や老人クラブ例会、地区民協の場等へ積極的にアプローチを行いニーズ把握、担い手確保を同時に図った。 ② 移動困難地域に対して、個別ニーズの調査を実施。その結果、当該地域に移送支援サービスが必要であれば検討を行った。 ③ ソフトバンクと連携しスマートフォンの何でも困り事相談を月1回社協ベースにて開催した。 (4) 平時・有事における見守り活動の推進と身寄りのない方への支援体制づくり ① 危機管理室と連携し町内会を中心に関係団体と連携しながら見守り体制づくりを行った。 ② もしもシートの普及と啓発。死後事務委任に関連する支援体制づくりを検討した。	(1) 生活支援・介護予防サービスのコーディネート ① 164件 ② 149件 ③ 199件 ④ 285件 ⑤ 56件 (2) 多様な関係機関との定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること ① 利用者48件預かり(※相談のみ等除く) ボラ登録者48人 対応件数58回(内訳: 猫49匹、犬18匹) ② 個別ケア会議 45回 圏域会議 7回 (3) 地縁団体や地域包括支援センター、民間企業等と連携し地域支援を行う ① ボランティア活動者延べ 1,081人 ※だけボラ農園が2箇所(5箇所→3箇所) ② 活動日数 244日※同日複数社稼働 利用者延べ 384人 ③ 活動日数 3日 利用者延べ 18人 (4) 平時・有事における見守り活動の推進と身寄りのない方への支援体制づくり ① 災害時の見守り体制づくり打合せ 13回 ② もしもシート講座 13回 行政書士相談会 17回	(1) 生活支援・介護予防サービスのコーディネート ① 108件 ② 247件 ③ 164件 ④ 64件 ⑤ 106件 (2) 多様な関係機関との定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること ① 36件預かり ボラ46人、猫44匹、犬12匹 ② 個別ケア会議 35回 圏域会議 4回 (3) 地縁団体や地域包括支援センター、民間企業等と連携し地域支援を行う ① ボランティア活動者延べ852人 ② 活動日数 293日 利用者延べ303人 (4) 平時・有事における見守り活動の推進と身寄りのない方への支援体制づくり デジタル講座: スマホ講座1回 ② もしもシート講座 回
			③ CSW事業 高齢者や障がい者等に限らず、幅広い世代で抱えている課題や地域の課題について把握し、その課題解決のための地域資源づくりや支援等について地域の方々や関係機関との連携と対策を検討。 ・不登校家族座談会 風まち(偶数月第3木曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 中央店(毎月第2水曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 東店(毎月第4水曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 西店(毎月第2火曜開催) ・こども・若者相談所 kamakura(市内3カ所で会場を変えて月1回開催) ・農園: と・いろ(主に5月～10月に随時実施) ・居場所ととま(奇数月開催) ・LINE相談	市内7カ所地域包括支援センター圏域に各1名を配置し、地域住民や関係機関からの相談に対応した。 ・不登校状態にある当事者や経験者の家族を中心にそれぞれの悩みを語り合い、情報を共有する場を提供した。 ・ひきこもりや不登校、また生きづらさや何らかの課題を抱える参加者が、居心地のよい時間を過ごせる居場所として開催し、必要に応じて相談・支援につなげた。 ・子どもや若者が集う居場所を通じてヤングケアラーの把握とその周知を行い、課題があると思われる子どもの把握に至る場合は、市こども相談課と連携して対応を行った。 ・ひきこもり当事者や経験者が農作業を通じて社会参加に向けた活動を行った。 ・ひきこもり当事者、その家族が交流を通じて悩みや経験を共有できる居場所づくりを行った。 ・若い世代でも気軽に相談できるようSNSを活用した。	相談 102件(内、来所 26件) 支援 90件、継続 55件、終了 47件 風まち: 実施日数7日 参加者 48人 igocoti(中央店): 実施日数 13日 参加者 276人 igocoti(東店): 実施日数 12日 参加者 170人 igocoti(西店): 実施日数 11日 参加者 162人 kamakura(児童センター・こども食堂合計) 実施日数 55日 参加者 855人 農園と・いろ: 実施日数 9日 参加者 33人 居場所ととま: 実施日数 7日 参加者 142人 登録者 295人 相談件数 19件	相談90件(内、来所18件) 支援32件、継続20件、終了60件 風まち: 実施日数6日 参加者61人 igocoti(中央店): 実施回数12回 参加者276人 igocoti(東店): 実施回数 12回 参加者121人 igocoti(西店): 実施回数 12回 参加者155人 kamakura(4時間) 実施日数 11日 参加者数148人 kamakura(2時間) 実施日数 7日 参加者数117人 職業体験会3/4 協力企業: 三星 参加者5人 農園と・いろ: 実施日数11日 参加者51人 居場所ととま: 実施日数5日 参加者146人 LINE相談: 登録者222人 相談件数31件
	2 かぎ預かり事業 (地域福祉課)	基本目標1	利用希望者が居住する近郊の協力施設にて鍵保管(24時間対応)いただき、緊急時と判断した場合は事業協力員が鍵を取りに行き安否確認を行う。	かぎ預かり事業が関係機関に認識され、利用希望者が増えてきていることに伴い、ニーズが多い地域における協力施設の増加を図った。	3月末: 預かり 46件 3月末: 協力施設 12件	3月末: 預かり 55件 3月末: 協力施設 12件
	3 ふれあいサロン事業 (地域福祉課)	基本目標2	地域が運営するサロン開設・継続をサポートし、地域住民の社会参加や見守り活動、安否確認、情報共有の推進を図る。	1町内会に1サロン開設を目指していく中で、介護予防や安否確認等の開設目的に合わせてサポートを行う。また開設後も必要に応じて継続的に関わりを築く中で、地域ニーズの把握や情報交換の場づくり(座談会)。また、サロン同士の交流機会を検討した。	3月末: 登録数 87箇所	3月末: 登録数 91箇所
4 介護支援いきいきポイント 事業(地域福祉課)	基本目標2	40歳以上の市民を対象に登録研修会を開催し、登録者本人の介護予防と要介護・要支援状態の方に対する地域の支え合い活動の推進を図る。	登録者の研修交流会の内容を充実する。また、在宅高齢者支援活動を推進した。	登録数 244人 スキルアップ研修交流会2回開催	登録数 284人 スキルアップ研修交流会3回開催	
5 無縁仏供養法要事業 (くらし支援課)	基本目標1	高丘第一霊園無縁仏供養塔での実施。市内で身元が判明しないままお亡くなりになられた方、社会の移り変わりによって、縁者を失ってしまった方々のお盆供養として毎年8月に、仏教会の協力により開催。	開催日時に合わせて、例年同様に仏教会の協力要請を行う。また多くの市民に参列していただくようホームページ等で周知を図った。	開催 8/20 参加者50人	開催8/23 参加者47人(内、一般参加22人)	

拠点区分 サービス 区分	事業名 (担当課名)	地域福祉実践 計画体系	具体的な実施事項	令和7年度の事業実績内容	令和7年度 第4四半期実績		令和6年度 第4四半期実績	
高齢者福祉推進事業	1 愛の一声運動 (くらし支援課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上の一人暮らし及び高齢世帯で安否確認が必要と認められる方からの申請を受け、乳酸菌飲料の配付を行い安否確認を実施する。 午前中、月～土ヤクルト販売員による声かけ	・利用者、民生委員関係機関へ安否確認を目的とした事業ということの周知の徹底を図った。 ・利用者で理解が難しい方には、職員が訪問し説明を行った。 ・安否必要時に速やかに確認ができるよう複数の緊急連絡先を確認し関係機関と情報共有を図った。 ・事業への協力者、ヤクルト販売員へ利用者の理解を深める研修を実施した。	3月末:登録世帯 289世帯 配付利用者実績 3,121件 安否確認件数 225件		3月末:登録世帯 280世帯 配付利用者実績 3,423件 安否確認件数 186件	
	2 給食サービス事業 (総務課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上の方で社協職員の調査の結果、身体状況などから食事の調理が困難な方へ配食し、栄養面の安定を図る。また、配食時に安否の確認を目的に実施する。(利用者負担1食400円) 週6回(月～土)夕食の弁当を市内福祉施設、仕出組合加盟会社より配達。 ※配食事業所は居住地により決定 ①申込②アセスメント③審査・決定④配食開始⑤年に1回モニタリング	・利用者増を図るためチラシ等を活用し、市民や関係機関等へ情報を発信し、利用者拡大に努めた。 ・食の自立の観点から低栄養状態や心身状況及び生活環境の把握に努め、給食サービスを利用することが適切かアセスメントを行い、年に1度利用者に変化がないかモニタリングを実施した。 ・安否確認の必要時にはスピーディーに確認をとるため、複数の緊急連絡先を確認するほか、緊急連絡先が市外、身寄りのない方などには、社協のかぎ預かり事業なども支援として検討してもらうよう関係機関との情報共有を図った。 ・年に1度、市・配食事業所・社協との意見交換会を実施し、現状の把握と情報の共有を図り、サービスの向上に努めた。	3月末:登録者 237件 配食利用者実績 2,461件 安否確認件数 216件・モニタリング172件 配食数実績 54,070食		3月末:登録者 245件 配付利用者実績 2,584件 安否確認件数 93件・モニタリング191件 居宅介護支援事業所等を対象とした給食サービス試食会の開催 11月28日 参加者 25名(市、2包括、11介護事業所) 6箇所配食事業所の弁当を試食 ※1カ所不参加	
	3 在宅介護リフレッシュ事業 (くらし支援課)	基本目標1	在宅介護者の心身のリフレッシュと介護者同士のつながりをつくることを目的として、懇談や交流活動を日帰りにより、年1回開催。	年1回の開催とし、参加定員を増員。地域包括支援センター等による関係機関や広報等を通じて、対象となる方々に事業のPRを積極的に行い、多くの方々に参加していただくように努めた。	開催:11/12 参加14人 (札幌北広島クラッセホテル)		第1回 6/26 18人参加(小樽市内) 第2回 11/14 14人参加(支笏湖丸駒温泉)	
社会福祉事業拠点 ボランティアセンター事業	1 ボランティア体験 プログラム事業 (地域福祉課)	基本目標2	・63メニューの体験ボランティアを通じてボランティアへの理解や関心を広げ、登録ボランティアの拡大を図る。	・見学、体験を通じ、ボランティアや市民活動のきっかけづくりや自分たちの住む地域や暮らしについて関心を深めていけるメニューを作った。	参加者 56人		参加者 23人	
	2 傾聴ボランティア養成事業 (地域福祉課)	基本目標2	・ボランティア養成講座を開催し登録ボランティアの拡大を図る。 (各講座年1回)	・個々のコミュニケーション力の向上と日常生活やボランティア活動に生かし、今後のボランティア活動者の人材育成を図った。	①傾聴ボランティア講習会 3/10開催 参加者65名 ②やさしい日本語講座(兼第3回防災ボランティア研修交流会) 2/7開催 参加者44名	(2)①傾聴講習会 3/21開催 参加者60名 ②やさしい日本語講座兼登録ボランティア研修交流会 3/17開催 参加者31名		
	3 災害ボランティアセンター 整備(地域福祉課)	基本目標2	・防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催する。 ①一般市民を対象に「防災ボランティア講座」を開催する。 ②小学3～6年生とその保護者を含む家族で構成されるグループを対象に「家族でチャレンジ!防災シミュレーション」を開催する。 ③防災ボランティア登録者を対象に「防災ボランティア登録者研修交流会」を開催する。	・防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催した。 ・未登録者対象の防災講座を開催することで登録者増を図り、被災時の共助体制構築につなげた。 ・苫小牧市の未来を担う若い世代へアプローチし、防災・災害及び防災・災害ボランティア活動に関する学び合いの場を設け、新たな繋がりを作った。 ・防災ボランティア同士の交流の場を設け、情報交換と防災に関する意識及び知識等のスキルアップを図り、災害時の適切な防災活動につなげた。	・防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催する。 ①防災ボランティア研修交流会と統合 ②2/11開催 参加者 4家族12名 ③ 防災ボランティア研修交流会 第1回7/5 参加者 35人 第2回11/26 参加者 49人 第3回2/7 参加者 44名	①3回開催 参加者48人 ②9/28開催 ③ 防災ボランティア登録者研修交流会 第1回 8/19 参加者 41人 第2回 2/8		
	4 ボランティアスクール事業 (地域福祉課)	基本目標2	・小中高生それぞれを対象としたボランティアスクールを実施し若年層のボランティア育成を図る。	・児童、生徒のボランティア活動に対する理解を深め、主体的学びや自主的な活動に結び付け事業を展開した。	9/28開催 小学生の部 参加者11人 8/9開催 中学生の部 参加者16人	小学生の部 12/7開催 参加者 11人 中学生の部 9/15～9/16開催 参加者 27人		
	5 雪かきボランティア事業 (地域福祉課)	基本目標1	・高齢や障がいにより自力での除雪が困難な世帯に対し除雪支援を行う。	・ボランティアと地域住民活動を調和させながらの継続を推進した。	12月～3月実施 利用登録件数…236件(3月末日現在) 稼働件数(延べ)…819件(4月10日現在 報告分)	(5)1,073件(延べ件数)		
	6 市民ボランティア講座 (地域福祉課)	基本目標2	・市民に広くボランティアに関する理解を深めてもらうための活動として実施する。	・ボランティア、市民活動への興味・関心を深め、他の事業や体験プログラムなどへの参加を促した。	6/24開催 参加者 41人	7/8(月)開催 参加者 43名		
	7 ボラセンフェスティバル (地域福祉課)	基本目標2	・ボランティアセンター事業のPR、活動者間の交流、市民ボランティア活動の活性化を目的として開催する。	・個人、団体の活動者同士の交流やつながりを広げボランティア活動の活性化を図った。	10/25開催 来場者 685人 ボランティア 個人62人(延べ)、団体34	11/9(土)開催 来場者571名 ボランティア109名(延べ)		
	8 福祉学習推進事業 (地域福祉課)	基本目標2	・市内の小中学校や地域を対象に介護の体験・疑似体験・当事者講話などを通して他者を理解する等の授業を実施する。	・学校や地域に対しての福祉教育の充実を目指し、プログラムの内容や講師の検討を行った。	【出前講座】学校:18校 延べ114学級 地域:4団体 【研修会】「福祉の学習推進セミナー」 8/29開催 参加者9人	17校 延べ 122学級 「福祉の学習推進セミナー」 6/10(月)開催 参加者 11名		
	9 おしゃべりカフェPeace (地域福祉課)	基本目標2	・一人ひとりのペースで自由に過ごことができ、不安や悩みごとに寄り添って一緒に考えてくれる人がいる「居場所」の提供をし、児童・生徒の孤立防止と社会的自立を目的として開設する。	・毎月第3火曜日にココマララウンジにて開設し、居場所の提供や不安や悩みごとを気負わず、気軽に話せる環境を参加者と一緒に行った。	毎週水曜日第3水曜日 計12回開催 参加者 196人(延べ)	実施回数 9回 参加者228名(延べ)		
	10 絵本読み聞かせ ボランティア講習会 (地域福祉課)	基本目標2	・読み聞かせが子どもたちの成長によりもたらす効果や技法について学ぶ機会を設け、これを習得した市民が読み聞かせ活動を行うことにより、子どもたちの健全育成とボランティア活動の充実を図ることを目的として開催する。	・子どもたちの健全育成とボランティア活動の充実を図った。	9/18～10/3 計3回開催 参加者47人(延べ) フォローアップ研修 12/16～18 計3回 参加者7人	9/18～10/2 計3回実施 参加者73名(延べ) 「フォローアップ研修」 12/16～12/19 計3回実施 参加者19名		

拠点区分 サービス 区分	事業名 (担当課名)	地域福祉実践 計画体系	具体的な実施事項	令和7年度の事業実績内容	令和7年度 第4四半期実績		令和6年度 第4四半期実績	
成年後見 制度事業 拠点	法人後見事業 (成年後見支援センター)	基本目標1	判断能力が不十分な方の権利と財産を守るため、家庭裁判所の審判に基づき、本会が後見人を受任し、養成した後見支援員と共に支援を行う。また、本人の意思決定支援を行うための支援技術向上を図っていく。	後見事務に意思決定支援を取り入れ標準化を行い、市民後見人と支援技術の向上を図った。	苦社協受任 122件 (三町各社協受任) 厚真町 4件、安平町 5件、むかわ町 18件 監督 3件	苦社協受任 131件 (三町各社協受任) 厚真町 4件、安平町 3件、むかわ町 11件 監督 14件		
	緊急事務管理事業 (成年後見支援センター)	基本目標1	虐待ケースなど、財産や健康の保護などが図れない場合等において民法に基づいて緊急的に通帳、印鑑の保管及び年金の受け取りを本人とともに行う。	日常生活自立支援及び、成年後見制度を利用する事を前提で、本人の通帳・現金等が何らかの理由で管理・執行ができない場合に限り、民法第697条及び第698条に基づき事務管理を行った。	新規数 4件 月預かり件数 12件	新規数 4件 月預かり件数 10件		
成年後見 制度事業 拠点	1 成年後見支援センター事業 (成年後見支援センター)	〃	一市三町での成年後見制度活用に関する広報啓発、相談及び利用支援、受任調整を行う。市民後見人の養成研修(年3回※三町開催含む)、活動支援、親族後見人、専門職後見人の活動支援を行う。 ①市民後見人養成講座 ②市民後見人フォローアップ研修 ③TMネットワーク会議 ④受任調整会議 ⑤成年後見制度説明会・困りごと相談会(市内コミュニティセンター等での開催) ⑥個別ケース会議及び地域ケア会議	国のⅡ期成年後見制度利用促進計画に基づき、苫小牧・東胆振三町・役場・町社協と共に地域の権利擁護支援を推進する。また、法定後見制度だけではなく身寄りのない人への支援等も苫小牧市と協力して実施した。 ①市民後見人養成講座実施(全5回)を実施。 ②市民後見人のスキルアップや情報の共有、意見交換会の実施。 ③市内福祉専門職への困難ケース等支援のあり方の協議、検討の実施。 ④成年後見申立てケースの後見人等候補者の協議、検討を実施。 ⑤市民向け成年後見制度の説明会及び相談会の実施。 ⑥個別ケース会議及び地域ケア会議への参加。	市民後見人 86件(46人) 後見支援員 38件(30人)	市民後見人 86件(49人) 後見支援員 42件(32人)		
	1 成年後見支援センター事業 (成年後見支援センター)	〃	〃	〃	【3回開催】苫小牧市・厚真町・むかわ町・安平町 ①受講者 29人 R7開催無 R7開催無 6人 (内登録) (17人) (5人) ②参加者 136人 4人 12人 14人 ③ 11回開催、相談件数 27件 ④ 12回開催、協議件数 73件 ⑤ 苫小牧市 3回開催:説明会27人、相談会 2人 むかわ町 1回開催:説明会13人、相談会 3人 ⑥苫小牧 67件・3町 0件 【R7後見制度及び権利擁護等の相談対応件数】 苫小牧 233件・3町 41件 (R7.4月～R8.3月電話、来所及び 訪問対応延べ2,814件)	【R6実績】苫小牧市・厚真町・むかわ町・安平町 ①受講者 40人 8人 19人 R6開催無 (内登録) (25人) (3人) (16人) ②参加者 39人 6人 16人 12人 ③ 11回開催、相談件数 32件 ④ 12回開催、協議件数 72件 ⑤苫小牧 3回開催:説明会 72人、相談会 6人 厚真 1回開催:説明会 18人、相談会 2人 ⑥苫小牧 74件・3町 3件 【R6 後見制度及び権利擁護等の相談対応件数】 苫小牧 247件・3町 40件 (R6.7月～R7.3月電話及び訪問対応延べ3,059件)		
指定管理 事業拠点	1 男女平等参画推進センター 事業 (男女平等参画推進センター)	基本目標3	男女平等参画に関する研修、講習、相談の実施及び情報の収集、提供を行う。施設及び設備を男女平等参画活動のための利用に供する。	市の男女平等参画推進の拠点施設として、施設の管理運営と啓発、相談事業を実施する。様々な男女平等参画を取り巻く社会課題に気が付くことに重点を置いたセミナーを実施するとともに、引き続き多様な視点での災害対応力強化を目指す。女性の働きを応援する、居場所づくり等の継続事業の充実を図る。また、各部屋の美化、備品整備を行い、利用しやすい環境を作る。SNS等を積極的に活用しセンターのPR活動を行い、主に若年層や働き世代の新規利用者の増を図った。	利用件数 3,482件 利用者数 32,785人 利用料収入 2,498,925円 参加料収入 600,142円 登録サークル 36サークル 男女平等参画推進センター祭入場者 1,616人 【講演会、講座等、相談、交流の場事業】 (1) 男女平等参画を図るための研修、講習、啓発事業等 ・ストレッチ講座4回 10人参加 延べ38人 ・防災 参加者 20人 ・ジェンダー1回 参加者 20人 ・国際女性デー啓発展示 ・にじいろ週間パネル展 (2) 女性の就労支援、起業支援を図るための研修、相談等 ・生き方働き方起業相談 月1回他随時 相談者 11人 ・コワーキング@プラス開催:2回 参加者 6人 (3) 無料弁護士相談 ・弁護士相談(3月) 相談者 9人 (4) 男女平等参画を図るための交流の場の開催 ・コワーキングDAY:月1回 ・ぼると(LGBT当事者の会):2回 ・カクレガ(若年層の居場所):月1回 (5) 図書資料の充実と貸出 利用者 98人	利用件数 4,157件 利用者数 33,943人 利用料収入 2,514,700円 参加料収入 620,935円 登録サークル 35サークル 男女平等参画推進センター祭入場者 840人 【講演会、講座等、相談、交流の場事業】 (1) 男女平等参画を図るための研修、講習、啓発事業等 ・生涯学習講座:15講座 参加者 191人 ・LGBT理解促進講演会:1回 参加者 16人 ・女性の暴力防止パネル展及びライトアップ (2) 女性の就労支援、起業支援を図るための研修、相談等 ・創業支援講座:1回 参加者 12人 ・生き方働き方起業相談 月1回他随時 相談者9人 ・コワーキング@プラス開催:2回 参加者 6人 (3) 無料弁護士相談 ・弁護士相談(11月) 相談者 6人 (4) 男女平等参画を図るための交流の場の開催 ・コワーキングDAY:月1回 ・ぼると(LGBT当事者の会):1回 ・カクレガ(若年層の居場所):月1回(11月～) (5) 図書資料の充実と貸出 利用者 97人		
	2 市民活動センター管理運営 事業 (総務課)	基本目標3	市民活動センター管理運営業務を行う。 (1)センターの貸館業務(利用料金の収受) (2)センターの維持管理業務 (3)センターで実施する事業の計画及び実施に関する業務	・これまで同様に安心安全に利用いただくため維持管理に努める。また、年齢や性別及び障がいなどに関わらず誰もが利用しやすいセンターとなるため様々な利用者の立場に立ったホスピタリティを提供した。 ・センターの利用促進に向け年に1回のアンケートや窓口で利用者の声を聞き、サービスの向上を図った。 ・自主事業をとおして地域や関係機関と連携・協働し地域活性化を図った。(自主事業) ・地域住民との花壇づくり(景観を整備し持続可能な環境保全に努める) ・1階ホワイエのテレビで健康体操を上映(来館者の運動習慣のきっかけ、健康維持の意識向上を図る) ・市民ギャラリー絵画展(幅広い年代への利用促進を目的に開催)	(1)センターの貸館業務(利用料金の収受) 利用件数 3,741件 利用者数 74,473人 利用料収入 2,128,875円 10/4 Web予約システムいつでも貸館開始 (アンケートの実施) ・期間10/15～11/15 回収334件 社協HPIに結果掲載 (主な改修) ・1階多目的ホール放送設備の入替 ・ホワイエ雨漏り修繕工事(西側側面窓のコーキング張替え) ・高圧受電設備の改修工事 ・防犯カメラの設置 (自主事業を開催) ・5/24花壇づくり ・1階ホワイエのテレビで健康体操を上映 ・市民ギャラリー絵画展12/17～12/20 24作品 来場者 143人	利用件数 3,684件 利用者数 72,099人 利用料収入 1,894,545円 (アンケートの実施) ・期間10/15～11/15 回収 342件数 社協HPIに結果掲載 (主な改修) ・3階和室のリニューアル(座敷→椅子) ・1階、4階多目的トイレのバリアフリー化 (自主事業を開催) ・6/22花壇づくり ・1階ホワイエのテレビで健康体操を上映 ・市民ギャラリー絵画展3/19～3/23 24作品・来場者242人		